

えほんのアリス

かい ななえ

えほんのアリス

さく：ルイス・キャロル

やく：おおくぼ ゆう

え：かい ななえ



1 しろうサギ

むかしむかし アリスという おんなのこが いてね、 とっても へんてこな ゆめを みたんだ。

いったい どんな ゆめだったか、 ききたい？



さあて、これが はじめの ばめん。 しろウサギが すぐそばを おおあわてで はしっていくところ、 アリスと すれちがいざま あしを とめて ポケットの とけいを とりだしてね。

そんなの おもしろくないって？ よく みてごらんよ、 ウサギが とけいを ポケットに いれて もちあるいてるんだよ？ そりゃあ ウサギだって とけいをもつなら ポケットに いれるってもんさ。 くちに いれたって もちはこべないしね —— それに はしりまわるんなら、 てが たりなくなるし。

あと おめめが あかくない？（しろウサギって みんな おめめが あかいと おもうんだけど。） みみも あかい、 きている うわぎは すてきな ちゃいろ、それにほら ポケットから あかい ハンカチが のぞいてる。 ほかにも あおのネクタイやら きいろの チョッキとか、ほんとに とっても おしゃれで。

「やんぬるかな！」と ウサギさん。「ちこくで おじゃる！」 いったい どこへちこくしそうなのかな？

うん、それはね ごぜんさまの ところなんだ。（もうちょっとしたら だいどころにいる そのひとの えが でてくるからね。） ごぜんさまはね いつも いらいらしてる おばさまのこと。 ウサギさんは またせたりしたら ひどく しかられるって おもってね。 かわいそうに これでもかってくらい びくびく。（どんなにぶるぶるしてたか わかる？ ちょっと ほんを ゆすってごらん、 みぎひだりに。

ほら、ぶるぶるしてる。） だってね ウサギさん ばつとして くびを ちょんぎられるかもしれないんだよ。 ハートの クイーンが いつも やることなんだけど、 はらを たてたら ちょきん（さしえは また あとでね）。 といっても そのひと いつも ちょんぎれって いいつけるだけで、 そうなると おもいこんでるんだけど じつは だあれも そんなこと しない。

はてさて、 しろウサギが はしりぬけていったんだけど、 アリスは そのさきがきになってね。 だから ついてったんだ。 で、 はしって はしっていると いきなり ウサギあなに おっこちちゃって。

ずっと ずーっと おちつづけてね。 ぴゅ——うう——うう、 このまま せかいを まっすぐ つきぬけて、 うらがわに でちゃうんじゃないかって アリスは そんな きがしてきて！

ふかい ふかい いどみたいなのに おみずは ぜんぜん なくって。 こんなところへ ほんとに おちちゃったら どんなひとだって きっと しんじやう。 でもほら ゆめのなかだから おちたって けがひとつ ない。 だって おちてると おもってるあいだも ほんとは よこになって なんのこともなく ぐっすり ねむってる

だけなんだから！

それでも いつかは あなのそこに たどりつくわけで、 アリスは うずたかく つまれた おちばと えだのうえへ どすん。 けがひとつ なく ぴょんと おきあがると また ウサギのあとを おいかけたんだ。

こうして アリスの へんてこな ゆめが はじまったってわけ。 こんど しろウサギを みかけたらね、 アリスちゃんみたく へんてこな ゆめを みてみたら いいんじゃないかな。

というわけで アリスは ウサギあなを おっこちたあと じめんのなかを えんえん はしってたんだけど、 きがついたら いきなり おおきな ひろまに いてね、まわりに ぐるりと ドアが いっぱい。

ところが どのドアも かぎが かかってて。 てことは かわいそうに アリスは ひろまから でられない。 だから なんだか かなしくなってきたね。

それでも しばらくしてから テーブルのそばに いて。 ぜんぶ ガラスで できていて さんぼんあし（さしえでは 2ほんが はっきり、 のこりの 1ぽんが ちらっと みえてるよね、 わかる？）、 で そのテーブルのうえに ちっちゃな かぎが あった！ ひろまを ぐるりと まわって、 これで ドアが どれか あかないか ためしてみたんだけど。

かわいそうな アリス！ そのかぎ どのドアも ひらけなくって。 でも さいごに やってきた ちっちゃな ドア、 するともう うれしいのなんの、 かぎが ぴったり あったんだ！

そのちーっちゃな ドアを あけて、 しゃがみこんで なかを のぞきこんだんだけど、 なにが みえたとおもう？ もう と一っても すてきな おにわで！ そこに いきたくって いきたくって！ なのに ドアが ちっちゃすぎるんだ。 からだを おしこんでも とてもむりで。 きみが ねずみの すあなに はいれないのとおんなじこと！

かわいそうに アリスちゃんは しっかりとじまりして、 かぎを テーブルにもどしてね。 すると さっきまで なかったものがあるってことに きがついて（もういちど さしえを みてね）、 これ いったい なんだとおもう？ こびんだよね、 ラベルが ついていて そこには 「ノンデ」の もじ。

そんなわけで くちを つけてみる。 すると とっても おいしくて、 あらためて いっきのみ。 そのあと もう へんてこなことに なってさ！ おもっても みないことだよ。 ふふ、 じつはね。 アリスが ちいさく ちいさくなっていて、

さいごには ちっちゃな おにんぎょうさんくらいの おおきさに なったんだ！

そこで ひとりごと。「あら このおおきさなら ちいさな あのドアも うまく とおりぬけられてよ！」ってことで はしりだす。 でもね たどりついた ドアは あかないわけで、 かぎは テーブルのうえ、 しかも これじゃあ とどかない！ どうして しっかりとじまりなんか しちゃったんだろうね！

はてさて、 そこで また みつけたのが ちっちゃな パンケーキ。 こんどは

こげあとが 「タベテ」って ことばに なってて。 なので さっそく たべて ぜんぶ のみこんだ。 そのあと どうなったと おもう？ うん、 おもいも よらないこと！ ふふふ、 じつはね。

アリスは おっきく おっきーくなっていったね。 せなんか もとよりも たかくって！ こどもよりも おっきく！ おとなよりも おっきく！ ぐんぐん によきにょきと！ えを みてごらん、 こんなに のびちゃってさ！

いったい どっちがいいと おもう？ ネコちゃんくらいの おおきさの ちっちゃな アリスと、 てんじょうに あたまを ぶつけっぱなしの おっきな アリス。

もしかして アリスが たのしんでるとか おもってる？ ちいさい パンケーキを たべて きづいたら とんでもなく おっきくなってたからって。 そりゃあ なん なく ガラステーブルから かぎを ひろえるし、 ちっちゃな ドアも あけられる けど。

うん そりゃあ できるとも。 でもね、 とおれないのに ドアを あけて どう なるって いうの？ ひどいってもんじゃないよ、 かわいそうに！ あたまを ゆか ちかくまで ひくくすれば、 かためで なんとか のぞけるくらいなんだ！ でも できるのは それだけ。 こう おおきくなってしまうと、 すわりこんで、 むねが さけそうなくらい おおごえで なくのも むりない はなしさ。

えーん えーん ないて。 そのうち なみだが ひろまの まんまんなかに こぼ れていって、 かわが ながれるみたいに なって。 あっというまに おおきな な みだまりが できて、 ひろまの はんぶんが ひたっちゃった。

もう どうしようもないとこだったんだけど、 そこへなんと たまたま しろウサギが ごぜんさまのもとへ むかうところ このひろまを とおりがかったんだ。 めいっぱい めかしこんで、 かたてには しろの かわてぶくろ ひとくみ、 も う かたてには ちいさな おうぎ。 ぶつぶつ ひとりごとを いっててね、「あ いや、 ごぜんさま、 ごぜんさま！ おまたせして かんかんだなんて いやでおじ ゃる！」

なのにな アリスに めもくれずで。 そこで くちを あけて 「もし、 よろ しくって ー」 なんていうと てんじょうから こえが してるみたいで。 なに せ あたまが たかーいところに あったからね。 すると ウサギは ものすごく おびえて。 てぶくろと おうぎを とりおとして、 ぜんそくりよくで にげて った。

そこで ほんとに へんてこなことに なって。 アリスが おうぎを とりあげて じぶんで あおぎだしたんだ。 すると ごらんあれ、 みるみる ちいさくなって 、 1ぷんも したら ネズミくらいの おっきさに！

ここで さしえを みてね。 つぎに おこったこと もう わかるよね？ ほんと に うみみたい、 ね？ でも まちがいなく これは さっきの なみだの いけ ー ぜんぶ アリスのなみだで できたものなんだ！

そういうわけで アリスは いけに ぼちゃん。 ネズミも ぼちゃん。 いろん な のが いっしょになって およいでる。



このえの およいでる アリス、 かわいくなあい？ みなもの したあたり、 アリスの あおい くつした みえるよね？

でも このネズミ どうしてこんなに あわてて およいで アリスから はなれようとするのか。 はて そのわけは、 アリスが イヌネコについて はなしだしたからなんだ。 ネズミは いつだって イヌネコの はなしなんか いやだからね！

きみが じぶんの なみだで できた いけを およいでるとして、 そこで だれかが おべんきょうとか おくすりのことを はなしだしたら、 やっぱり めいっぱい およいで どこか いっちゃいたくならない？

4 どーどーめぐり

アリスと ネズミが なみだの いけから あがると、 やっぱり ずぶぬれで。
たくさんいた へんてこ いきものたちも おんなじで、 みんな いっしょに おっ
こちててね。



そこにいたのは ドードー（まんまえに いる おおきな とりで、 つえに よっかかってるね）、 それと アヒルに インコ（アヒルの まうしろで あたまごしに みる やつね）、 あと こどもワシ（インコの ひだりがわに いる やつ）とか そのほか いろいろ。

さてところで そのみんなだけど どうやって からだを かわかしたのか さっぱり わからなくて。 けれども ドードーが —— あたまの いい とりだから —— どーどーめぐりを するのが よろしい なんて いってね。 いったい なんのことだと おもう？

わからない？ だったら きみは まだまだ こどもだね！ じゃあ よおく きいてね、 すぐに ちゃんと わかるから！

まずは はしる コースを つくること。 そのかたちは まるなんだけど とりあえず ちゃんと まるになって ひとつに つながってれば なんでもいい。

とにかく やるひとは コースの あちこちに たって、 くつつきすぎなければ なんでもよくて。

しかも 「いちについて よーいどん！」なんて かけごえも いらなくて、 みんな すきなときに はしりだせばいいし、 すきなときに やめていい。

そこにいた いきもの、 アリスと みんなは ぐるぐる はしりっぱなしで それを かわききるまで つづけたんだ。 で、 さいごに ドードーが みんなの かちって いって、 みんな ごほうびが もらえることに！

もちろん アリスが ごほうびを あげる やく。 とはいえ あげるほどのものもなくってね、 たまたま ポケットに ドライフルーツが あったもんだから、 ひとりひとつずつ みんなに わけた。 すると アリスのぶんの ごほうびが たりなくって！

そこで どうなったと おもう？ あと アリスが もってたのは、 おさいほうの ゆびぬきだけ。 ほら さしえを みて、 どうなったか わかるよね。

「こっちへ かしなされ。」って ドードーが いった。

で、 ドードーは ゆびぬきを うけとって、 また アリスに かえして、 こんなことば。「みごとな このゆびぬきを われらより おうけとりくだされ！」というわけで そのぼの いきものが ぱちぱち わーわー。

こんな へんてこな おくりものって ある？ かんがえてもみてよ、 おたんじょうびプレゼントを くれるってひとが、 きみの おもちゃばこのところへ いって、 そのの きれいな おにんぎょうを とりだして 「はい、 いいこだから このすてきな おたんじょうびプレゼントを あげよう！」なんて いうのと、 まだ もっ

てない あたらしいものを くれるのと、 どっちが いい？

さあて つぎの おはなしは、 しろウサギの おうちで アリスが どうしたか。 おぼえてる？ ウサギが てぶくろと おうぎを おとしたときのこと。 アリスの こえが そらから きこえてきたのかって びっくりしたんだよね。 だから てぶくろも おうぎも ないままじゃあ そりゃあ ごぜんさまのところへも おうかがいできない。 そこで ちょっとしてから さがすために ひきかえしたんだ。

ドードーと へんてこどうぶつたちが どこかへ いっちゃうころには、 アリスも ひとりきりで あたりを うろついててね。

で、 ウサギさん どうしたと おもう？ なんと アリスを じぶんちの メイドさんと かんちがいして、 あれこれ いいつけだしたんだ！ 「メリアン！ いますぐうちに いって、 てぶくろと おうぎを とってくるでおじゃる！ いそぐでおじゃる！」

ひょっとすると あかい おめめは まえが あんまり みえないのかも。 だって アリスと メイドさんは にてもにつかないんだよ？ それでも とっても いい こだったから、 ちっとも きをわるくせずに ぜんそくりよくで ウサギの おうちへ むかってね。

つごうよく ドアは あいてて。 だって ちりんちりん やることになったら、 きっと ほんものの メリアンが ドアを あげにくるからね。 そうしたら アリスは なかに いれてもらえない。 それから うんよく ほんものの メリアンには あわないまま かいだんを とことこ のぼれて。 アリスが どろぼうだって つかまえられたら たいへんだからね！

あがって すすんで ウサギの おへやに はいると、 そのの テーブルのうえに てぶくろが おいてあったから、 さっと とって でていこうとした そのとき、 たまたま めにはいったんだ。 テーブルのうえの こびんが。 もちろん あのこ とば 「ノンデ！」って ラベルつき。 そりゃあ アリスも のむよね！

まったく、 よかった よかった。 じゃない？ だって ここで のまなかったら、 これから はなす すてきな おはなしも おこらなかったんだから。 そうなると やっぱり ざんねんだよね？

もう アリスの おはなしにも なれてきたから、 つぎに どうなるか わかるよね？ むりなら きいてて。

おっきく おっきーくなったんだ。 ほんの あっというまに おへやは アリスで ぎゅうぎゅう、 まるっこい びんに ジャムが ぎっしり つまってる、 ちょう

ど ああいう かんじ！ てんじょうまで ずっと アリスで、 おへやの どのすみにも アリス！

ドアは うちがわに ひらくものだったから、 やっぱり どうやっても あく すきまが ないわけで。 そのとき ウサギが まちくたびれて じぶんで てぶくろを とりにかえってきたんだけど、 もちろん なかに はいれなくって。

で、 どうしたと おもう？（さあて ここで さしえ。） トカゲの ビルを おうちの やねに のぼらせて、 えんとつを おりてけて いいつけたんだ。 ところが たまたま アリスの かたあしが だんろに つっこんでね。 ビルが えんとつを おりてくる ものおとが したとき、 かるく ちょこんと けりあげちゃったから、 ビルは はじきとばされて、 おそらへ ぴょーんと でっちゃったんだ。

かわいそうな ビルくん！ そう おもわない？ きっと ものすごく ふるえて たよ！

えっ、そんなワンコちゃんには みえないって？ でもほら、 いまは アリスの
ほうが ちっちゃくなっちゃったから。 そういうわけで ワンコが おっきく み
える。 しろウサギの おうちで みつけた ちいさな ふしぎな パンケーキ、 そ
れを ひとつ たべた アリスは ぐんぐん ちいさくなって そのまま ドアを と
おれるようになってね。 そうでないと もう おうちから そとへ でられないとこ
ろだった。 かわいそう、 じゃない？ だって これから はなす へんてこな こ
となんて ゆめにも おもってなかったんだもん。

とにかく ほんとは ちいさな ワンコ、 ね。 かわいい ペットじゃ なあい？
なら ちょっと このようすを みて、 アリスの さしだした ぼうきれに ほえ
てるよね！ ほら アリスも ちょっと こわがってる、 ずーっと。 だって でっ
かい アザミの かげに かくれてるし、 こっちに とびかかってくると いけない
からね。 そうなったら 4とうだての ばしゃに ひかれたのと おんなじくらい
アリスが ひどいことに なっちゃう！

ペットの ワンコちゃん きみの おうちでも かってる？ いるなら いつも イ
ヌに やさしく、 ちゃんとした えさを あげてると いいんだけど。

むかしむかし あるところに ぼくの しりあいの こどもたちが おりました。
せのたけは きみと おなじくらい。 ペットに ワンコを かっておりました。 な
まえは ダッシュ。 これは そのこどもたちから きいた、 たんじょうびの ごち
そうを あげたときの おはなし。

「しってる？ あるひね、 そういえば きょう ダッシュの たんじょうびだって
なって、 いったの。『ダッシュに たんじょうびの ごちそうを あげようよ。
あたしたちも たんじょうびに もらうでしょお？』 でね、 いっぱい かんがえて
『じゃあ なにが いちばん いいかな、 じぶんたちの たんじょうびなら？』
でね、 また いっぱい かんがえて さいごに みんなで ひとつに きめたの。
『じゃあ オートミールの おかゆだね、 ぜったい！』 だからね、 ダッシュも
ぜったい きにいるって おもったの。

おてつだいさんの ところに 行って、 ひとさら おかゆを つくってって いっ
てね、 それから ダッシュを おうちに よんできて いったの。『さあ ダッシュ
、 おたんじょうびの ごちそう あげる！』 ダッシュが よろこんで とびはねる
って おもったのに、 なのに かみついてきて！

だから まえに おさらを おいて、 いったの。『もう ダッシュ、 がつつかな

いの！ いいこだから おとなしく たべて！』

で、 ダッシュ ペロペロって したを つけたんだけど、 そうしたら、 その、
とんでもない かおに なっちゃって！ でね、 あのね、 だいきらいだって、
もう ちっとだって たべるもんかって！ だから あたしたち スプーンで ぜんぶ
のどに ながしいれなきゃいけないって！」

アリスも この ワンコに おかゆを あげるのかな？ するとは おもえないけ
どね。 そんなの どこにも もってなかったし、 さしえにも おさが ないしね
。

ワンコから にげだしたあと、 アリスが どうなったか しりたい？ ほら じゃれるには ほんと おおきすぎる どうぶつだったからね（たとえば カバの こども。 いっしょに たのしく じゃれられる？ むりだよ、 きっと でっかい あしで ずどんと パンケーキみたく ペしゃんこに されちゃう！）。 だから きづかれずに にげだせたとき アリスは ほっとしたんだ。

で、 あちこち うろついたんだけど、 なにを したら もとの おおきさに もどれるのか さっぱりで。 そりゃあ なにかを のみくいすれば いいんだろうけど。 これまでも そうだったしね。 でも それが なんなのか おもいも つかなくて。

そんなとき ふと あらわれたのが でっかい キノコ。 せたけが たかくて つまさきだち しないと てっぺんに あるものなんて みえなくって。 で なにが みえたと おもう？ こんな の ぜったいに いいあてらんないね！

なんと おっきな あおムシ。

いまから はじまるのが アリスと あおムシの おはなしなんだけど、 まずは このさしえを よく みてね。



あおムシの まんまえに おいてある へんてこなのは みずギセル。 けむりを
すうために つかうんだ。 ながい くだを とおって けむりが、 へびみたく う
ねうね やってくるってわけ。

で、 あおムシの ながっぱな、 しゃくれあご、 わかる？ というより、 はな
みたいな あごみtainなもの、 が ただしいかな？ ほんとは あしのうちの ふた
つなんだけど。 ほら イモムシは あしが たくさん あるよね。 そのしたを み
てくと どんどん ついてるし。

きっと めんどうだと おもうんだけど、 あおムシは まいばん なくなっていない
か あんなに たくさんの あしを かぞえるんだって！

それに すごく めんどうだと おもうんだけど、 どのあしから うごかしたら
いいか きめなきゃいけないんだってさ。 なんせ 40も 50も あしが ある
から、 ちょっと あるくにしても どのあしから うごかしたらいいか きめるだけ
で それなりの じかんが かかって、 もう あるくどころじゃないよ！

ともかく アリスと あおムシ いったい なにを おはなししたんだろうね？

その、 アリスは いったんだ、 おおきさが いろいろ かわって もう わけが
わからないって。

すると あおムシが、 ちょうど いまの おおきさ、 これを どう おもうって
きいてきてね。

アリスの へんじは、 もうちょっとくらい おおきくなりたい —— 8センチじ
ゃあ あんまりな おおきさだって！（8センチを はかってみるとしたら なかゆび
くらいの おおきさかな、 ほら このときの アリスが それくらい。）

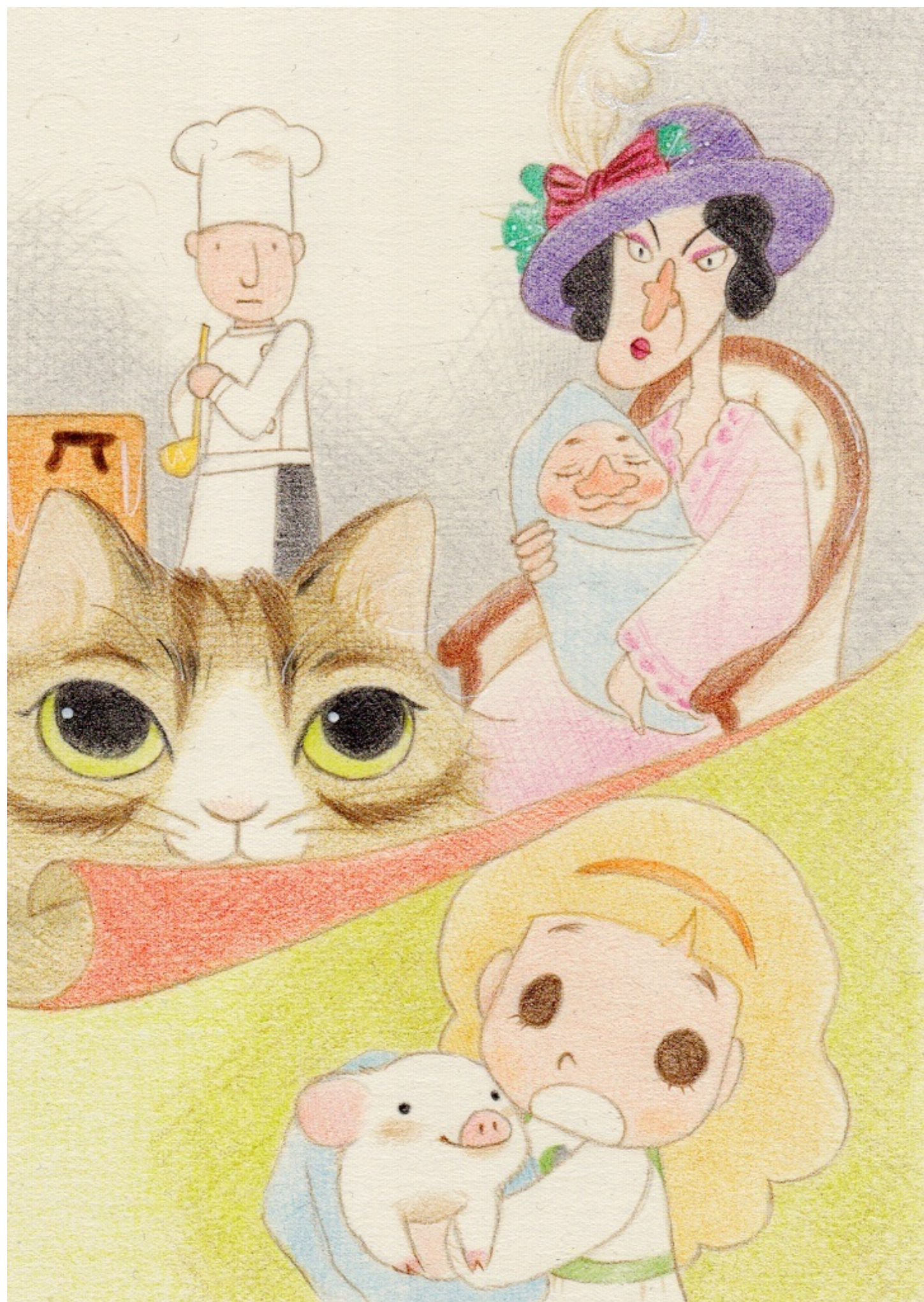
そこで あおムシが おしえてくれて。 キノコの かたはしを たべると おっき
くなって、 もうかたはしを たべると ちっちゃくなれるぞって。

なので アリスが ふたきれ ちぎって おそろおそろ くちに いれると、 まあ
けっこう いいかんじの せかつこうに なんとか なれてさ！ ようやく ごぜん
さまのところへ むかったんだ。

アリスが ごぜんさまのところへ うかがった おはなし、 ききたい？ ほんとに おもしろい おうかがいに なってね。 きたいして いいよ。

もちろん はじまりは ドアの ノック。 でも だっれも でてこなくて。 だから じぶんで あけることに。

さあて さしえに めをやると、 なかに はいった アリスの めに とびこんだ ものが ちょうど わかる。



ドアが まっすぐ だいどころに つづいていてね。 ごぜんさまは おへやの まんなかに すわって あかちゃんを あやしてる。 あかちゃんは わんわん。 スープは ぐつぐつ。 コックさんが スープを まぜまぜ。 ネコ —— チェシアネコが —— にやにや、 チェシアネコは いっつも そうなんだ。 アリスが はいってきたときは ぜんぶが こんなぐあい。

ごぜんさまは すてきな ぼうしと ガウンを みにつけてる、 よね？ でも さんねんながら かおは あんまり すてきじゃあなくって。

あかちゃんは —— まあ きみだって もっと かわいいこ みたこと あるとおもうんだけど、 その、 もっと おとなしいこ、 ね。 でもね いま よおくみておいてね、 つぎ でてきたときに わかるかどうか たしかめるから！

コックは —— まあ もっと うでききの コック ひとりふたり あったことあるかもね。

でもでも きっと これより ものすごい ネコは みたこと ないはず！ だよな？ ちょっと こんなネコちゃん かってみたくない？ みどりの めが あいらしくて、 えがおも とっても かわいくて。

ごぜんさま アリスには ひどく ぶしつけで。 まあ しょうがない。 その、じぶんの あかちゃんなのに 「ブタ！」とか よぶくらいだし。 ブタじゃない、よね？ あと コックに アリスの くびを たたき殺して いいつけたんだけど、もちろん そんなこと コックは しなくて。 さいごには あかちゃんを こっちに なげつけてきてさ！ だから アリスは あかちゃんを うけとめて、 つれだしたんだ。 そうするしか なかったと おもう。

というわけで おうちから はなれて、 もりを ぬけて、 かわいくない そのあかちゃんを かかえて行ってね。 すごい じたばたしてたから つかまえておくのもほんとに たいへんで。 でも さいごには ひだりあしと みぎみみを ぐつつかめば いいって きづいたんだ。

でも ふつうの あかちゃんを こんなふうにつかんでみちゃあ いけないよ、めっ！ こんなふうにあやされたい あかちゃんなんて あんまり いらないからね！

さて、 あかちゃんは ぶーぶー いいつづけてるわけで。 だから アリスも まがおで いわなきゃいけない。「もし ブタになっちゃうんなら もう なんにもしてあげなくてよ、 いいこと！」

って おわりに かおを のぞいてみたんだけど、 いったい どんなことに なってたとおもう？ さしえを ごらん、 こたえあわせ。

「えっ、 アリスが あやしてるの、 あのあかちゃんじゃ ないよ？」

ほおら、 やっぱり わかんなかった。 だから よく みておいてって いったのに！ うん、 これが あのあかちゃん。 こブタに かわっちゃったんだ！

なので、 アリスは したに おろして、 もりのなかへ はなしてね。 そこでひとりごと。「ほんっと かわいくない あかちゃん！ でも ブタに なったら ちょっとは ましかも。」

そのとおりだと おもわない？

ひとりぼっち、ひとりぼっち！ かわいそうな アリス！ あかちゃんどころか
ブタも もう いっしょじゃない！

そんなとき チェシアネコが あたまのうえの きに やどってたもんだから、 と
っても うれしかったこと わかるよね。

たしかに ネコは とっても すてきな えがおなんだけど、 ちょっと みて、
はが ぎっしり！ アリス すこしだけ ひいてない？

うん、 まあ、 すこし。 でも やっぱり ネコだって はは いるわけで。 そ
れに いらいらしてたら なるべく にやにやは しないしね。 だから それなりに
アリスも うれしくって。



アリス　とっても　おすまししてなあい？　あたまを　すっくと　もたげて、　りょうてを　うしろに　まわして、　まるで　ネコに　ものを　おしえてるみたい。

そういえば　おしえておきたいことが　ちょっと　あるんだ。　アリスと　ネコの　このさしえを　みておいてね。　さあて　へそを　まげないでね、　おねがい！　ほんの　まめちしきだから！

きの　そばに、　キツネノテブクロが　あるの　わかる？　これ、　どうして　キツネノテブクロって　いうか　しってる？　もしかして　キツネと　かわりあるとか　おもってる？　まちがい！　キツネは　てぶくろ　はめないよ！

もともとは　「こびとの　てぶくろ」って　いったんだ。　でも　「こび」って　きつねの　ばけものでも　あるからね。

ここで　まめちしきは　おしまい。　いらいらが　おさまるまで　ちょっと　まってるね。

どう？　すっかり　おちついた？　もう　だいじょうぶ？　くちの　すみも　ひんまがってない？　じゃあ　つづきを。

「チェッシャにゃん！」って、　アリスが　よんでね。（ネコにしては　すてきな　なまえじゃなあい？）「おしえてちょうだい、　ここから　どちらに　いったほうが　よくって？」

すると　ネコは、　ぼうしやの　ところへ　いきたきゃ　こっちの　みち、　やよいウサギだったら　あっちの　みち、　って　おしえてくれてね。「どっちも　へんにゃやつ！」って　ネコは　いうんだけど。

そのあと　ネコが　きえちゃって！　まるで　ロウソクの　ひが　きえるみたいに！　まあ　アリスは　やよいウサギのほうへ　あるきだすんだけど、　すすんでいくと　また　そこに　ネコが　いてさ！　そんなに　すぐ　でたり　きえたりは　いやだって　いってやったんだ。

すると　こんどは　ネコも　きえるのが　すごく　ゆっくりになって、　はじめが　しっぽ、　さいごが　にやにや。　へんてこじゃあない？　ネコが　いなくなってるのに、　にやにやが　あるなんて。　みてみたい？

このページの　すみを　めくってみたら、　にやにやを　みてる　アリスが　でてくるよ。　ネコを　みてたときよりも、　ちょっとだけ　びくびくしてない、　かな？



これは おかしな おちゃかい。 チェシアネコと わかれたあと、 アリスは チェシアネコのおしえてくれたとおり、 やよいウサギと ぼうしやに あいにいったわけ。 みつけたとき そいつらは おおきな きのしたで おちゃかいをされていてね。 あいだには ヤマネも すわっていて。

テーブルに ついてたのは この3にんだけだったんだけど、 そのまわりには ずらりと ティーカップが ならんでてね。 テーブル ぜんたいは みえないけど、 ほら さしえの ぶぶんだけでも カップが 9こも あるよね、 やよいウサギのてにあるのも くわえると。

そいつが やよいウサギ。 みみが ながくて、 かみに わらが ぐちゃぐちゃからまってる。 わらが あるって あたまが おかしい しるしだからね —— なぜかは わからないけど。 ぜったいに かみのけに くくりつけちゃ だめだよ。 ひとに あいつの あたまは おかしいって おもわれるからね！

それから テーブルの はしに すてきな みどりの アームチェアが あったんだけど、 それが まるで アリスの せきみたいに みえてね。 だから そこへ 行って こしを おろしたんだ。

そうして やよいウサギと ぼうしやと ながなが おはなしを して。 ヤマネは あんまり しゃべらなかった。 ほら いつも ぐっすり ねむってるからね、 たまに ちょっと おきたりするだけで。

ねむってるぶんには やよいウサギにも ぼうしやにも つかいがってが いいんだよ、 だって あたまが まるくて ふかふかだから、 まくらみたいで。 ひじを ついても、 もたれかかっても、 きがねなく はなしを しても いいんだ。 ふつうは あたまを まくらがわりに されるのなんて いやだよな？ でも ヤマネみたく ぐっすり ねむってたら、 きづかないよ。 だから きにならないんじゃないかな。

ざんねんながら アリスは のみもの たべものを すこしも もらえなくって。 でも しばらくしたら おちゃも バタートーストも ごじゆうに どうぞ ってことになって。 ただ いったい どのせきで たべたんだろうね、 そもそも おさらじたいがないし。 おさらがあるのは ぼうしやだけで。 いや、 きっと やよいウサギにも あったかも。 だって みんなで じゅんぐり せきを かえたら（それが このへんてこな おちゃかいの きまりだからね）、 つぎに アリスが すわるのは やよいウサギの せきだし、 そのとき ウサギが じぶんの おさらミルクつぼを ひっくりかえしてるって きづいたみたいだし。 きっと おさらと ミルクつぼは おっきな ティーポットの うらに かくれてたんだよ。

このぼうしやは いつも うりものの ぼうしを もちあるいていてね。 あたまに のっかってるのも そもそも うりもの。 ほら、 ねだんが ついてるよね
——「10」と 「6」—— これは 「ぎんか10まい どうか6まい」ってこと。
こんなの へんな うりかたじゃない？ あと きれいな ネクタイをつけてない？
ほら いいかんじの きいろい ネクタイ、 あかの みずたまいり。

そいつが たちあがって アリスに ひとこと。「かみを きりたまえ！」 おおきな おせわ、 だよね？ アリスの かみって きらなきゃいけないかな？ とっても
かわいらしい ながさだと —— ちょうど いい ながさだと おもうんだけど。

これが まえに おはなしした きれいな おにわの いっかく。 ほら、 アリスは さいごに なんとか ちいさくなれたから、 あのちいさな ドアも ぬけられてね。 たぶん にほんあしで たった ネズミくらいの せたけ。 なので これは もちろん ちっちゃな バラの きで、 こいつらは ちっちゃな にわし。

なんて おもしろい こびとさんたち！ いや、 ひと、 なのかな？ たぶん いきてる トランプなんじゃないかな、 あたまと てあしが ついてるから、 こびとみたいに みえると。 で、 あかい ペンキで なにを しているの、 かな？ と、 いうことで アリスに わけを はなしたんだ。 ハートの クイーンが そのあたりに あかい バラの きが ほしいって いっただけなんだけど、 なのに かわいそうに このにわしくんたちは おおまちがいを しでかして、 かわりに しろいのを うえちゃったんだ。 それで もう びくびくしてね、 だって クイーンさま きっと はらを たてて、 みんなの くびを ちょんぎれって いうに きまってるからね！

ものすごい 怖い じょうさまで、 だれかに はらを たてると きまって そういうんだ。「くびを はねよ！」 だれも だれかの くびを ちょんぎったり しないんだけどね。 だって いうことなんて だれも きかないし。 でも いつも そういうふうに いうんだ。

さあて おいつめられた このにわしたち、 どうしてみたのか わからない？ バラを あかく ぬって見たんだ。 おおあわてで、 クイーンが くるまえに やっちゃえてね。 そのあとなら たぶん クイーンも もともと しろい きだったなんて わからないしね。 そうなれば たぶん こびとたちも くびを ちょんぎられないで すむし！

ほら きに 5りんの おおきな しろバラが あるよね —— これを みんな あかくするのは けっこう たいへんだよ！ まだ 3つと はんぶんしか おわっていないし、 ほら、 それに せめて むだばなしで てを とめたりしなけりゃ —— がんばろうよ、 こびとさん、 がんばってよ！ そうしないと おわらないうちに クイーン きちゃうよ！ きに しろバラが あるって しられたら となると おもう？ きっと 「くびを はねよ！」 って。 もう がんばれって、 おまえら！ いそげ、 いそげ！

クイーンが きちゃった！ おこってない？ ああ、 かわいそうな アリスちゃん！

ゲートボールは やったこと ある？ いろんな いろの おおきな きの ボールが あってね、 それを ころがして、 はりがねの ゲートの あいだに とおすんだ。 ながい とってつきの おおきな きづちが あって、 それで ボールを こづいて ころがすんだよ。

さあて さしえを みてごらん。 ほら アリスが ゲートボールを やってるところだよ。



「でも できてないよ、 なんか よく わかんない おおきいの かかえてるし！
ねえ、 あれじゃあ きづち もてないよ？」

うん、 あのね、 あの よく わかんない おおきいの（ほんとの なまえは フ
ラミンゴなんだけど）、 あれが つちなんだよ！ このゲートボールでは ボールは
いきた ハリネズミ ーっ しってる？ ハリネズミって ボールみたく まんまる
に なれるんだよ ーっ で あと つちが いきた フラミンゴって わけ！

それで アリスは ただいま ちょっと おやすみちゅう。 ひさしぶりの おとも
だち、 ごぜんさまと おはなしするためにね。 もちろん なくさないよう つちを
わきに かかえててね。

「でも おともだちじゃないし、 あんなやつ！ あかちゃんを ブタっていうし、
アリスの くびを たたききれって いったし！」

うん、 あれは ほんの じょうだん。 アリスの くびを たたききれだなんて。
あかちゃんは ーっ まあ ほんとに ブタだったしね！ あのえがお みてごら
んよ！ ねえ、 あのくち アリスの あたまより でっかいよね。 でも あれで
みえてるのは はんぶんだからね！

でも ちょっとだけ おはなししたところで、 やってきた クイーンが アリスを
つれてっちゃってね。 グリフォンと ウミガメフーミに あわせるんだって。

グリフォンが なにか しらないの？ えっ！ じゃあ なにを しってるの？ こ
いつは もんだいだ。 でもでも、 さしえを ごらん。 あかい あたま、 あかい
つめに みどりの うろこ、 このいきものが グリフォン。 これで わかったね
。

それから そのとなりが ウミガメフーミ。 あたまが こウシなんだ。 だって
ウミガメフーミの スープには こウシの あたまを つかうからね。 これで わか
ったね。

「でも こいつら なにしてんの、 アリスの まわりで あんなに ぐるぐる？」

えっ、 もちろん わかってると おもってた！ エビの フォークダンスを おど
ってるんだよ。

グリフォンと ウミガメフーミに つぎ あったとき、 おぎょうぎよく きいてみ
たら、 きっと また おどってくれるよ。 ただ あんまり ちかよらせないでね。

かわいそうに アリスみたく つまさを ふまれちゃうから。

ハートの クイーンが タルトを つくる はなし きいたこと ある？ そのあと どうなったか いえる？

「うん、 あったりまえ！ うたが ぜんぶ おしえてくれるじゃない！

ハートの クイーンが タルトを つくる

なつの さなか いちにち かけて

ハートの ジャックが タルトを ぬすむ

かくれて こっそり ひとりじめ！」

うん そうだね、 うたは そうなる。 ところが うたが こうだからって ジャックに おしおきするとか なしですよ。 まず わるい やつとして つかまえなきゃ いけなくて、 てくびに くさを つけて、 ハートの キングのまえに つれてって、 ちゃんとした おさばきを しなきゃね。

さあて はじめにある おおきな さしえを みれば、 このおさばきが どんなに おおごとか わかるよね。 さばくひとは キング！

キングって とっても えらい、 よね？ でも そんなに たのしくなさそう。 かつらのうえに のってる おおきな かんむりは おもそうで きゅうくつそうだしね。 でも やっぱり どっちも つけとかないと。 でないと あいつが さばくひとで キングだって みんなに わかんないしね。

で、 クイーン なんだか むすっとしてない？ テーブルのうえに あるのは タルトの おさらだけ、 いっしょうけんめい つくったのにね。 それで いたずらな ジャックを みつけて（てくびから くさが たれてるの わかるよね？）、 おまえが わたしの つくった タルトを ぬすんだんだ、 って。 だから ちょっとくらい むすっとしてたって むりもないってわけ。

しろウサギが キングの そばに たちながら、 あのうたを よみあげてて、 そいつが どんなに いたずらな ジャックかって みんなに つたえててね。 で、 はなしあうひとが（ほら、 はこがたの ざせきに カエルと アヒルの ふたりが みえるよね） そいつの 「ゆうざい」「むざい」 どっちかに きめるってわけ。

さあて これから おはなしするのは、 アリスに なにが おこったか。

でね アリスも はこがたの ざせきの そばに すわってて。 まのあたりにしたひと ってことで よばれたんだ。 まのあたりって なんのことか わかる？ わるいひとが、 おさばきされるようなことを した、 そのげんばを みたってことなんだ。 べつに ただ このおさばきで だいじなことを しってるだけでも いいん

だけど。

ところが アリスは クイーンが タルトを つくるところなんて みてないし、
ジャックが タルトを たべるところも みてない。 ほんとのところ、 なあんにも
知らない。なのに いったい どうして よびだされたのか。 そんなの ぼく
にも わからない！

とにかく みんなが よびたがってね。 で しろうサギが おおきな ラッパを
ふいて、「アリス！」って おおごえ だして。 で アリスは おおあわてで たち
あがって それから ——

それから なにが おこったと おもう？ うん、 スカートが はこがたの ざせ
きに ひっかかって、 ざせきが ひっくりかえって、 さらに はなしあうひとたち
も かわいそうに そこから おっこちちゃって！

12にん ぜんいん わかるか やってみようね。 ほら、 おさばきを はなしあ
うひとの かずは 12のはずだから。 ええと、 カエル、 ヤマネ、 クマネズミ
に イタチ、 ハリネズミに トカゲ、 チャボ、 モグラ、 アヒルに リス、 で
モグラの うしろに ながい くちばしの わめいてる とりが いるね。

でも まだ 11。 あと もうひとり みつけないと。

あっ ちいさな しろい あたまが モグラの うしろから でてる。 ちょうど
アヒルの くちばしの した？ とにかく これで 12。

さしえを かいたひとに よると うるさい とりさんは コウノトリの ひなで（
もちろん わかったよね？）、 ちいさい しろあたまは ハツカネズミの こどもな
んだって。 かわいい どうぶつじゃ なあい？

アリスは みんなを そろりそろり ひろいあげてね。 あんまり けがしてないと
いいんだけど！

あらあら これは！ いったい ということ？ アリスに なにが あったんだ？
さて それを これから できるかぎり おはなしするね。 これは おさばきが
おひらきに なったところ。 キングが 12にんに ハートの ジャックの ゆうざ
い むざいを きめろと 言ってね —— つまり タルトを めすんだのは そいつ
なのか、 ほかの やつが たべたのか きめるって ことなんだけどね。 でも い
じわるな クイーンは とにかく おしおきするって さきに きめたくって。 こん
なの ただしくないよね？ だって ほら、 タルトを めすんでないんだったら も
ちろん おしおきなんか だめだし。 おしおきを うけるにしても じぶんの やっ
たことにじゃないと、 ね？

だから アリスは いったんだ。「がらくたの からっぽ！」

すると クイーンは こういう。「こやつの くびを はねよ！」（これは おこっ
たときの おきまりの ことばだったね。）

で アリスの へんじ。「あんたたちなんか こわくない！ ただの トランプじゃ
ないの！」

となると みんな ぶんすかするわけで。 ちゅうに とびあがって アリスのうえ
へ みんなして ふりかかってきまして。 まるで ざあざあ にわかあめみたいに。



つぎに どうなったかなんて おもいも よらないよ。 そのつぎはね、 アリスが
このへんてこな ゆめから めが さめたんだ。 きづいたら トランプは ただ
きから おちてくる はっぱに なってて、 かぜが びゅーんて かおのほうへ ふ
きおろしてきててね。

アリスみたいに へんてこな ゆめ みられたら、 すてきじゃなあい？
いちばん いい やりかたは こう。 まず きのしたで ねそべってね、 じっと
まったあと ついに しろウサギが とけいを てに はしってきたら そこで め
を とじて、 あとは アリスちゃんに なったつもりで。

さようなら、 いとしい アリス、 さようなら！

(おしまい)

Original Credit

The Original Text: *The Nursery "Alice"* (1890)

The Original Author: Lewis Carroll (1832-98)

えほんのアリス

<http://p.booklog.jp/book/36176>

著者：ルイス・キャロル

訳者：大久保ゆう

絵：かい ななえ

※この翻訳は「クリエイティブ・コモンズ 表示 2.1 日本 ライセンス」

(<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>) によって公開されています。

上記のライセンスに従って、訳者に断りなく自由に利用・複製・再配布することができます。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/36176>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/36176>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.